

第19回 篠山再生市民会議 会議録(要旨)

(記録：行政経営課)

日時：平成20年6月19日(木) 14:00～16:40

場所：篠山チルドレンズミュージアム 交流棟

出席者：篠山再生市民会議委員

チルドレンズミュージアム館長、サブマネージャー、事業スタッフ

庁内調整会議職員

傍聴者：なし

会議次第

1 開会

2 協議事項

(1) 篠山チルドレンズミュージアムについての現状及び今後の方向性

施設内調査

施設内調査結果について協議

(2) 今後の検討テーマについて

(3) 当面のスケジュール

(4) その他

3 閉会

決定事項等

・ 次回は中央図書館の現地調査を行う。

・ 6月20日に市から再生計画(案)が公表されるので、次回は現地調査のほか、再生計画(案)について行政からの報告、意見交換を行う。

議事要旨

1 開会

(議長) 6月10日に第二次答申を市長へ提出した。市の再生計画案が6月20日に出るということで、今回の会議で報告をいただき、議論を行いたい。今後の会議の進め方として、“まちづくり”というテーマがあるが、市民会議で1年間行ってきた財政再生の議論を活かす形で、行いたい。これまでの議論であがってきた施設等を実際に訪問し、そこからの議論を発展させていきたい。次回は中央図書館の現地調査を予定している。

2 協議事項

(1) 篠山チルドレンズミュージアムについての現状及び今後の方向性について

(事務局)〔資料1により説明〕

(館長) 年間の入館者数を6万5千人としており、月ごとの目標を設定している。4月・5月は目標に満たなかったが、6月の予約は順調に入っている。入場者の状況について要因分析も行っている。

チルドレンズミュージアムの特徴には二面性がある。例えば市民の利用率が低い、裏返すと広域的な利用がされており、市の広告塔の役割も果たしていると言えるのではないか。

これまでは公的サービス施設ということで、民間での連携イメージが持てなかったようだが、この春から指定管理者制度になり、「民間へ委託された民間施設」と捉えられることによって、民間企業との連携アイデアについて、相手側から申し入れもある。

また、市内の小学校へ出張ワークショップに出かけ、ノウハウを教育現場で活かしてもらえそうな仕掛けをしている。

あるいは、近隣の子ども施設において、コンテンツ等を受託できないか模索している。館のサービス、ノウハウを広く提供していきたい。

さらに、必要に応じた運営費を確保するため、財団等の助成事業や企業の社会貢献活動へアプローチしている。

そして、ボランティアの方についても、アイデアを持ち込むだけでなく、ワークショップなどを通じて、やりたいことが実現できる施設となるよう取り組んでいる。

人、モノ、お金の最適調達を実現できないかと考えている。

(A委員) 年間何人の入館があれば収支は立つのか。運営事業費のうち、人件費はいくらか。

(館長) 入館者が目標の6万5千人を達成すれば、入館料収入と指定管理料で収支が立つ目論見である。戦略としては入館者を目標より高いところに設定しているが、財源が不足する部分は、民間も含めた財団等の助成金を活用できるように申請している。人件費は2,940万円である。

(B委員) 自然を活かした公園としての類似施設と、田植えなどのワークショップで連携してはどうか。他にも、子どもを対象とした朗読や紙芝居などのボランティアグループもあり、似たようなワークショップをしている団体と協力し、定期的に年間スケジュールに組み込んで、魅力を高めていけるのではないか。

(館長) 他のボランティア団体へも呼びかけをしており、一通りワークショップの年間スケジュールを立てて、連携できるものがあればスケジュールを変更して組み込むなどの調整をしている。

(C委員) 小学生と中学生の子どもがいるが、何回か来れば飽きてしまう。今回、入場券のイラストがそれぞれ違って、集めたくなるようになっていたり、もう一度来てみたいと思う要素ができています。リニューアルしたことをもっとアピールしてはどうか。さらに、市民も自ら宣伝していかなければならないと感じた。

< 施設内調査を実施 >

(議長) 篠山全体のまちづくりに、この施設をどのように活かしていけるのか継続して議論していきたい。今後も年間の入場者数等、進捗状況の情報をいただきたい。

(2) 今後の検討テーマについて

(議長) 今後はまちづくりをテーマに会議を進めていくことになるが、「まちづくり」と言ってもさまざまな分野があり、1年間の中で、問題を絞らないと具体的な議論ができないだろうということで、どのような切り口で進めていくか運営委員会等で協議した。まずは、これまでの財政再生の議論を活かすためにも、議論にあがってきた施設を実際に訪れる中で、まちづくりの議論へ繋げていくのがよいのではないかとということになった。また、総合計画審議会でなされていく、総合計画に関する議論とも棲み分けができるのではないかと。ほかにも企業誘致や上下水道についてもヒアリングをしてみて、財政との関わりについて議論していきたい。また、築城400年祭が来年に控えているということで、まちづくりとして、あるいは財政の足を引っ張らないような

形で実施していく方法を議論してはどうか、という提案もあった。

ほかに、これを議論したいということや、優先順位を変えて議論すべきではないか、といった意見があれば出してもらいたい。

(D委員) 人口に関する議論がしたい。将来の人口を見据えて、人口減少社会の中で市民の満足度をどう高めていくかということを議論したい。総合計画審議会でも人口想定に関する議論はなされると思うが、参考にしてもらえそうな分析をしたい。

(B委員) 人口を増やし、減少を食い止め、活性化させる議論をしたい。集落を維持する住民の確保に困っているところもあるが、近隣市では自治会規則を変えるなどして、2軒増えたという集落もあるそうだ。景観や農地保全などへの考慮もいるが、規制があるからできないというところから出発するのではなく、土地利用の変更や篠山ブランドの活用によって、周辺地域の人口を増やす方策がないだろうか。

(E委員) 地元の校区で高齢者の移動手段などのマップをつくった。福祉、情報伝達システム、観光など、地域ごと小学校区ごとの特色を活かしたマップをつくり、全市のまちづくりにつなげていくことはできないか。

(D委員) 自治会によっては古い体質が残っており、地域力が弱いところもある。地域資源や特色、人口動態などを分析して、分析結果を活かしてアイデアを出していきたい。

(F委員) チルドレンズミュージアムについて、今日は時間が限られていたが、運営管理者と改めて意見交換をしたい。

(議長) 職員400人体制や、地域自治組織の具体化についての議論を深めていきたい。先日他県を訪れたとき、合併した市をいくつか視察したが、人口85,000人で、職員数370人台という市があった。そこはコミュニティ基本構想を策定したうえで、地区ごとにまちづくり運営協議会を設置し、コミュニティセンターを作るために合併特例債を使っていた。また、1970年代から行革を進め、民間でもできる行政の機能を民間や地域へ移譲しているという事例もあった。そのような全国的に進んでいる例を参考にしながら、具体的な提案をしてはどうか。

(3) 当面のスケジュール

(議長) 次回第20回は、中央図書館の現地調査、第21回は、企業誘致についての議論を行う。それ以降の日程、内容については運営委員会で調整したい。

<第20回以降の開催日>

- ・第20回 平成20年 7月17日(木)
- ・第21回 平成20年 8月19日(火)

(4) その他

(事務局) 行政において、「再生計画(案)」を6月20日に発表し、パブリックコメントやふるさといちばん会議などで意見を伺いながら、11月に計画を策定する予定である。次回は「再生計画(案)」の報告をしたい。

- 以上 -